

## 『生演奏を楽しむ音楽』

- 《1》 講座：オペラの魅力 ①  
《2》 日時：2026(R08)年 06 月 12 日(金) 10 時~12 時  
《3》 場所：池田市ナムの広場  
《4》 参加者：受講生:42 名 (欠席 5 名)、CA さん:2 名  
《5》 概要：今回は、テノール歌手：清原邦仁先生、ピアノ：岩本実姫先生 による「オペラのお話あれこれ」の講座でした。清原先生のユーモアタップリでわかりやすい説明で、オペラの魅力の一端にふれることができました。  
(なお、清原先生のお父様は関西合唱の重鎮で、あとで簡単に触れます)

なお、わが2班は講座のあと、石橋の料亭でランチをとりました。



- 《6》 清原先生による講義  
① 「オペラとミュージカル」の違い

- ・ミュージカルはマイクを使用し、オペラはマイクを使用しない、という分類もあるが、厳密ではない。マイクを使用するオペラもあるし、19世紀初頭のミュージカル発祥当時、マイクはなかった。
- ・結局、作曲家が「これは「オペラ」だ」といえばオペラで、「これは「ミュージカル」だ」といえばミュージカル、という定義が正しい。

## ② 「オペラのはじまり」について

17世紀初頭に、キリスト教(墮落した音楽?)から離れたギリシャ神話への回帰が行われた。

- ・1598年の「ダフネ」が最も古い。(楽譜が完全な形では残っていない)
- ・1600年の「エウリディチェ」が次に古い。
- ・1607年の「オルフェオ」これが現在上演される最も古いオペラ。

(最愛の妻が亡くなり、冥界に迎えに行くと、奥さんより前を歩いて入り口まで振り返らなければ奥さんは生き返る、という条件。つい振り返ってしまう。各国に似たような逸話が存在。)

(まったくの偶然であるが、丁度このころ日本では歌舞伎が始まっている。)

## ③ オペラの種類

- ・正歌劇 (オペラ・セリア)
- ・喜劇 (オペラ・ブッフア)

最初にオペラがあったが、かたぐるしくなく気楽な「喜劇 (オペラ・ブッフア)」が誕生した。その後、もともとのオペラを「正歌劇 (オペラ・セリア)」と呼ぶようになった。

## 《7》 実演鑑賞

清原先生が場面を分かりやすく説明されてから、表情・しぐさを交えて7曲歌われた。

(それを文章で表現することは私の手にあまるので、演目を3つ記載します)

- ① 歌劇【セルセ】より (ヘンデル作曲)
  - ・樹木の影で (1694年)
- ② 歌劇【リナルド】より (ヘンデル作曲)
  - ・私を泣かせて下さい (1711年)
- ③ 歌劇【パーリデとエレナ】より (グルック作曲)
  - ・ああ、私の優しい情熱が (1770年)

## 《8》 2班のランチ懇親会

‘oncc の別の教室で一緒の方もいて、いろいろなお話しを通して親密になりました。

### 石橋の料亭



## 《9》 その他

- ① 清原先生のお父上、清原浩斗さんは、関西合唱連盟の八代目理事長などを歴任。関西年末の風物詩である「万人の第九」で、1983年の第1回目から、歌唱指導・リハーサル・本番にすべて立ち会った方です。
- ② CAさんから、秋に実施される「ふれあい交流祭」に参加希望の方は、次回の講座終了後に話し合いを持ちたい、との連絡事項がありました。  
(例年、「合唱」で参加)

(ブログ担当 2班岩井)